

## 斜面防災対策技術協会九州支部・地すべり防止工事士会の「令和8年度通常総会」開く

多様化する災害に向けて、若手技術者の人材育成へ



### 新理事選任や事業計画などを決めた「令和8年度通常総会」

(一社) 斜面防災対策技術協会九州支部(近藤剛史支部長)と九州地区地すべり防止工事士会(近藤剛史会長)は28日、福岡市の八仙閣本店で令和8年度通常総会が開催された。総会では、令和7年度活動報告及び収支決算報告が審議承認されたほか、令和8年度事業計画及び収支予算を決めたあと、理事辞任に伴い新たに理事2人が選出され、総会後は会員同士の和やかな懇親会が開かれた。

総会の挨拶で、近藤剛史支部長・会長(国土防災技術(株)九州支社)は「本日も鹿児島では



総会挨拶の近藤支部長

再び雨が降り始め、沖縄付近には台風も近づいています。近年は梅雨入りも早まり、線状降水帯や豪雨災害が各地で頻発している中、改めて防災の重要性を強く感じています。斜面災害だけでなく、地震や森林火災など、災害の形態も多様化しており、人命やインフラを守る私たちの役割は、年々大きくなっています。その中で、昨年閣議決定された国土強靱化実施中期計画を実施する為にも、人材育成の重要性が必要不可欠です。協会としても、現地

検討会や技術研修会を通じて、若手技術者の育成に力を入れております。今後も、私たちの活動が社会にどのように貢献しているのかを積極的に発信し、防災分野の発展につなげていきたい」と挨拶した。

両会の総会は、近藤支部長・会長を議長に選出し、①令和7年度会務及び事業報告、②令和7年度収支決算及び監査結果報告、③令和8年度事業計画、④令和8年度収支予算など審議承認した。九州支部の事業計画では、「地区関係諸官庁等に対する広報活動」、「技術に関する研修会、講習会の開催」、「協会本部が行う技術の進歩、改善に関する調査・研究に協力」、「会員の増強」などを決めた。地すべり防止工事士会は、「会員の技術向上のための研修会」、「地すべり防止工事士育成講習会」、「地すべり防災に関する啓発・広報活動」などを推進する。また、理事辞任に伴い、両会の理事に遠山国彦氏（大日本ダイヤコンサルタント(株)九州支社）、中村宜彦氏（日本建設技術(株)）が選任され、総会後は懇親会を開き、参加者同士の交流が図られた。